

第3回非静力学モデルに関するワークショップ開催のお知らせ

今年の秋に第3回非静力学モデルに関するワークショップを開催します。これまで2回は有志を中心に開催しましたが、第3回はオープンな研究集会とします。

非静力学数値モデルは21世紀の気象学にとって欠くことのできない重要な研究基盤です。しかしながら、多機能で高精度の非静力学モデルシステムの開発には多くの専門家の協力が必要です。また、数値モデルを改良するためには利用者と開発者が連携し様々な事例で数値実験を行う必要があります。このため、幅広い情報交換の場としてワークショップを開催することにしました。

ワークショップでは力学フレーム、物理過程のパラメータ化、データ同化、現象解析、局地気候モデルなど、LESから全球、基礎から応用に至るまで非静力学モデルについて幅広く議論します。興味と関心のある方は是非御参加下さい。

日時：9月18, 19日

会場：学術総合センター

〒101-0003 千代田区一ツ橋2丁目1番2号

講演申し込みの要領は以下の通りです。

6月末日 応募締切り

発表者名、所属、題目、要旨(200字以内)、

連絡先(メールアドレス、住所、電話)

* e-mailでお申し込みをお願いします。

7月末日 予稿締切り A4カメラレディー

(形式は学会予稿に準拠)

* 郵送にて御提出をお願いします。

主催：非静力学数値モデル研究会

後援：気象学会

連絡先および予稿提出先

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻

東北大学大学院理学研究科地球物理学専攻

岩崎俊樹

e-mail : iwasaki@wind.geophys.tohoku.ac.jp



「豪雨・豪雪をもたらす気象擾乱に関する研究集会」開催のお知らせ

「豪雨・豪雪をもたらす気象擾乱に関する研究集会」を開催いたします。

豪雨・豪雪をもたらす気象擾乱に関して、近年日本域で野外観測がいくつか行われ、また数値モデルによる再現実験や感度実験も多く行われ、研究が大いに進展しました。この研究集会では、こうした野外観測・解析およびそれに関する数値実験の最近の成果をふまえて、豪雨・豪雪をもたらす気象擾乱の実態、構造、発生・発達メカニズム、スケール間の関係など様々な角度から報告を行い、議論をして、参加者の理解を深めます。また、全体的なレビューや将来の観測計画や観測手法なども議論します。じっくりと議論する時間をとり、若手研究者には大いに発表してもらい、議論の中心になってもらいたいと思っています。関心のある方は奮ってご応募・ご参加下さい。

日時：平成13年8月29日(水)～8月31日(金)

場所：北海道大学低温科学研究所・講堂

発表の応募：応募は極力e-mailをご利用頂くようお願い致します。発表希望者は、7月中旬までに申込先のメールアドレス宛に、発表者名、所属、題目、発表日時および持ち時間の希望、要旨(100字程度)、連絡先(メールアドレス、住所、電話)を入力してお送り下さい。

プログラムのアナウンス：7月下旬

申込先：〒305-0052

茨城県つくば市長峰1-1, 気象研究所内

戦略的基礎研究「メソ対流系」事務局

吉崎正憲・近藤里恵

Tel & Fax : 0298-53-8631

e-mail : yohol@mri-jma.go.jp